

生命保険活用チェックシート

No	個人保険・法人保険 共通	<input checked="" type="checkbox"/>
1	出口戦略を常に考える（資金を何に使うのか）	<input type="checkbox"/>
	→ 個人保険：「相続税納税資金」「分割調整資金」など	
	→ 法人保険：「借入金対策資金」「相続対策資金」「退職金準備資金」など	
2	出口戦略を常に考える（契約途中での流動性：払済や変換など）	<input type="checkbox"/>
	→ 保険料の支払途中での資金ショートや重度の認知症発症など	
No	個人保険編	<input checked="" type="checkbox"/>
1	保険金受取人が適切か？	<input type="checkbox"/>
	→ 配偶者のままになっていないか（生活保障目的ならOK）	<input type="checkbox"/>
	→ 受取人固有の財産であるため、本来であれば事業後継者がベスト	<input type="checkbox"/>
2	生命保険金を遺産分割の対象としていないか？	<input type="checkbox"/>
	→ 受取人固有の財産であるため、原則として遺産分割の対象とならない	<input type="checkbox"/>
	→ 例外として「特段の事情」がある場合には、特別受益の対象となる	<input type="checkbox"/>
3	課税関係を考える場合には、保険料負担者が誰かを預金履歴含めて検討したか？	<input type="checkbox"/>
	→ 生命保険実務と異なり、税務では「保険料負担者が誰か」が全てである	<input type="checkbox"/>
	→ 途中で保険料負担者が変更していないかにつき預金履歴を確認する	<input type="checkbox"/>
	→ 保険法 2 条では契約者＝保険料負担者としているが形骸化の可能性あり	<input type="checkbox"/>
4	税理士であっても、その家族に必要な保障額となっているかを確認する	<input type="checkbox"/>
	→ クライアントの体況を常に把握し、新規の保険契約が可能かを把握しておく	<input type="checkbox"/>
	→ 経済合理性で解約等するのではなく、必要な保障を確保するという視点を持つ	<input type="checkbox"/>
5	生命保険契約に関する権利が「本来財産」か「みなし相続財産」かを把握する	<input type="checkbox"/>
	→ 「本来財産（＝契約者が被保険者）」であれば、遺産分割の対象	<input type="checkbox"/>
	→ 「みなし相続財産（≠契約者が被保険者）」であれば、遺産分割の対象外	<input type="checkbox"/>
No	法人保険編	<input checked="" type="checkbox"/>
1	会社にとっての必要保障額を把握する（死亡リスク、三大疾病など）	<input type="checkbox"/>
	→ クライアントの体況を常に把握し、新規の保険契約が可能かを把握しておく	<input type="checkbox"/>
	→ 経済合理性で解約等するのではなく、必要な保障を確保するという視点を持つ	<input type="checkbox"/>
2	年金支払特約の付帯状況を確認する	<input type="checkbox"/>
	→ 新規契約時に付帯すべきであるが、契約後での付帯も可能	<input type="checkbox"/>
	→ 保険事故発生後の付帯では課税関係が変わる（一括益金計上）	<input type="checkbox"/>
3	法人税基本通達（以下、法基通という）の改正内容を把握する	<input type="checkbox"/>
	→ 令和元年 7 月 7 日までの契約と、それ以降の契約では税務処理が異なる	<input type="checkbox"/>
	→ 法基本 9-3-5、9-3-5 の 2、9-3-7 の 2、9-3-8 に注意	<input type="checkbox"/>
	→ 可能であれば、保険募集人の提案内容を検証する	<input type="checkbox"/>